



営農ウィークリーNEWS

高温耐性品種「にこまる」作付に向けて



3月5日、経済部営農販売課と事業センターが協力し、向島事業センターで、高温耐性品種「にこまる」の2024年産作付用種子もみの配布準備を行いました。

「にこまる」は、高温耐性と良食味米品種として西日本以西の各地で栽培が拡大しています。

JAでは、2010年産米が記録的な猛暑により、品質が低下したことから、高温耐性品種である「にこまる」の試験栽培を2011年産米より継続して行ってきております。2023年産米は、2010年同様に全国

的に記録的な猛暑の影響により品質が大きく低下し、特に新潟県の品質低下など大きく報道されました。

また、全国の農産物検査による1等米の比率は、過去最低水準になったことから、高温耐性品種への切替が全国的に検討されております。

「にこまる」は、高温耐性品種の中でも良食味米として、穀物検定協会による食味ランキングの最上位である特A産地が増加傾向にあります。

当JA管内においても「ヒノヒカリ」に次ぐ新たな品種として、良食味と高温耐性を兼ね備えた「にこまる」の普及拡大を行います。

2024年産米は、前年の7.6倍になる35ヘクタールの栽培を予定しています。



—TAC information—

「京おくら」早期出荷を目指し、栽培試験開始



経済部営農販売課では、3月5日、淀支店管内で「京おくら」の早期出荷と省力化栽培を目的に試験を開始しました。今回、産地化に取り組む「京おくら」で、水分コントロールが安易に出来る特殊な固化培土を使用し、苗を育苗する試験を始めました。



2023年産「ヒノヒカリ」・「にこまる」玄米

ヒノヒカリ



にこまる



左側:ヒノヒカリ・右側:にこまる

※画像は、JA管内の2023年産米検査現場から抽出された試料を撮影したものです。（「ヒノヒカリ」・「にこまる」どちらも京都市伏見区産）